





鬼鹿毛の牙藏
勢肌彩俱利伽羅
兒雷也の鐘吉

龜遊堂
元田影長

上



A514
6

川上

荒巻

編輯

梅堂

國政重



勢肌彩俱利伽羅

初編上之巻

龜遊

堂梓

448-82977

勢肌彩俱利伽羅二編序

初編の足場よきまごづの愛出度くの音頭より引出を
水遣りの勢肌喧嘩と火事身と捨る東京男の達引
磨上たる茶釜の光り常盤の松葉も繁り琴の音るるね
鐘の音の響き四方よ高砂の具嶋基と三編よ三三九度張
大尾の艶場仲人役ハ作者と画師鶴と縁たる龜遊堂実入
源次も八兄も熊公も松五郎と鐘吉の結納祝二編で一番ノヤ

使者と四海よその名辰の年

義よよろとたへ向う水無月

川上を魚ん

たむむき記

九十九

九上



山^{やま} 見^みつん
 秋^{あき}の
 弾^{はじ}

鳶^{とび}者^{もの}
 松^{まつ}五^ご郎^{らう}

美那二上



花^{はな}や 今^{いま}月^{つき}々^々
 向^{むか}ふ^ふの^の
 岩^{いわ}よ^よの^の
 や^やら^らの^の
 鬼^{おに}鹿^か毛^けの^の
 彦^{ひこ}藏^{ざう}

阿^あ王^{わう}
 遊^{あそ}女^め



女房きんぎょ

女房

男房

見雷也

鐘吉

うつて又見雷也の鐘吉の四
 手格最十希よまもえん
 ののと大濠あもあちく
 浪をぬ敷と帯ひ紙中傳
 の波打まのつるだーや
 二お赤んころせと世方
 の菖蒲より花をさあさる
 二人の男よまへらと一紙
 潮やとよ園のまだとて
 まりぬけり船よ花さる
 そのお不曲者まると
 声よ静た見むと見の
 か何小尾今何うの一着ふ

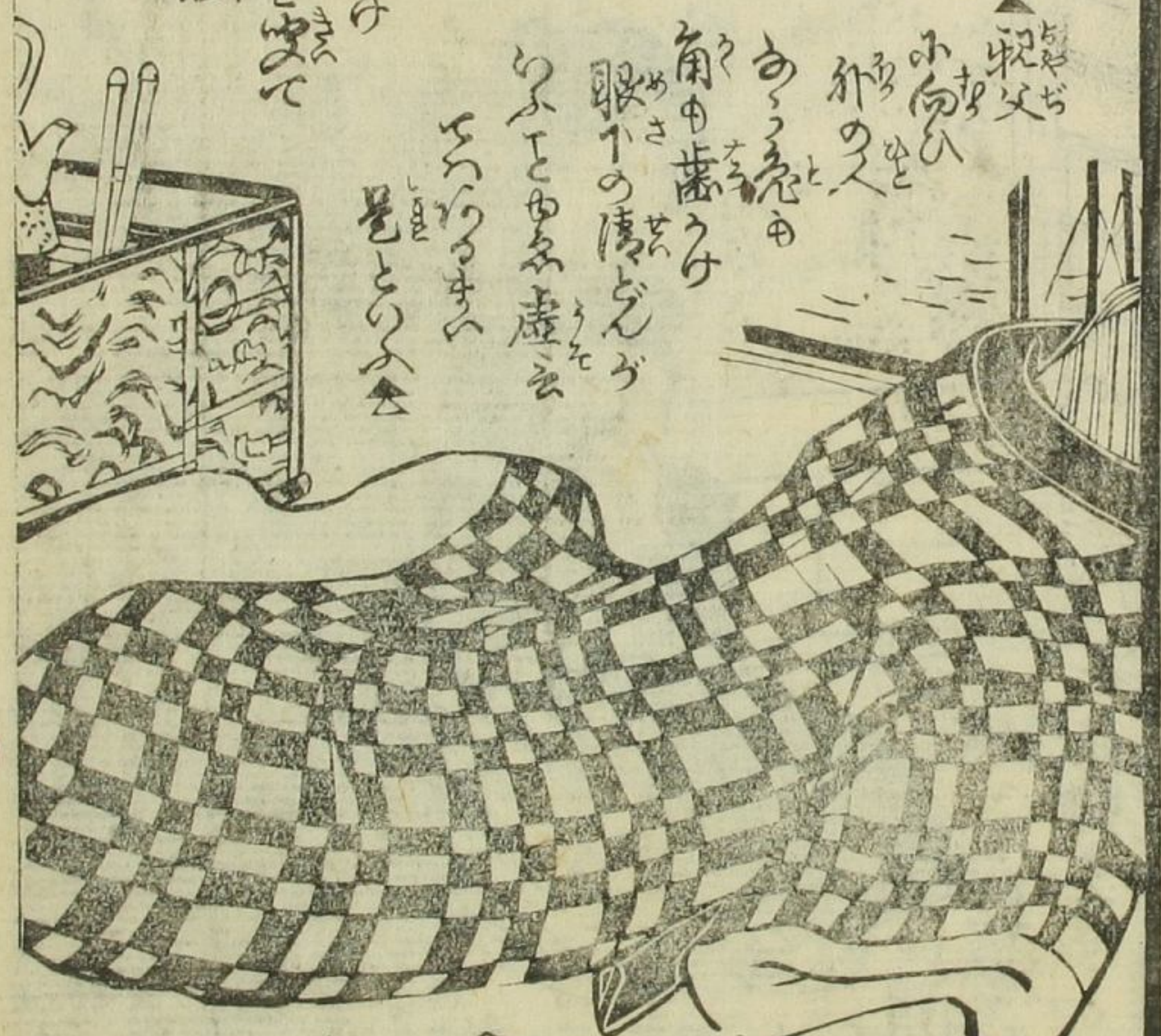


▲あてのつるをこれバ
 我住居長を火絆の
 片角へ得るちを



五居ね
 ぶりのま
 何とと種を
 柏とらを
 止るお

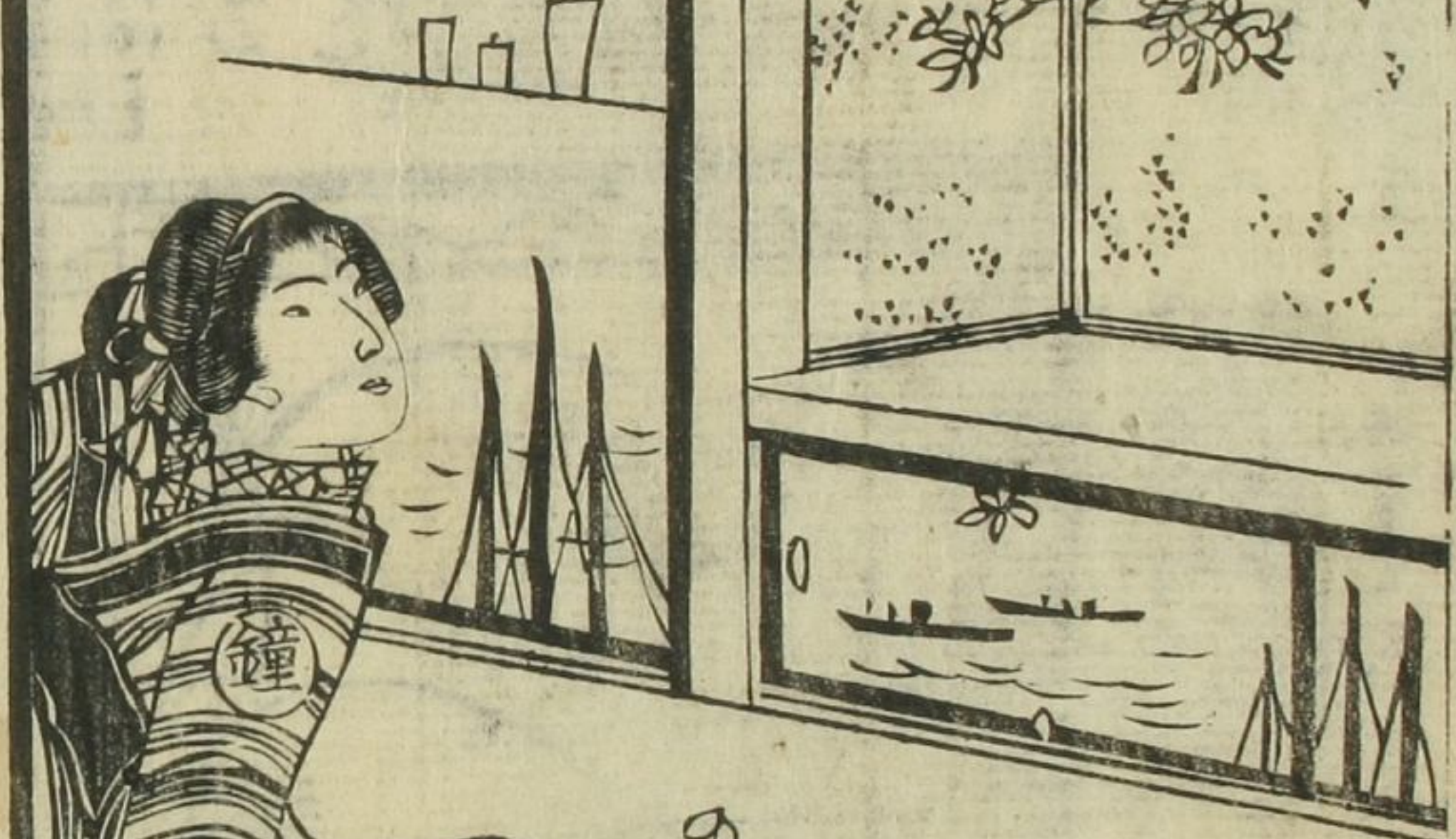
子松きごんを右服由
 とくらしとある後を記
 するに橘の目や極
 げ今も入へお出あつて
 他へおぬらち侍者と
 就父と表のて喉で
 今と作せよとつと
 案が上使の役目よ
 案の一ま色ばあだ支
 案のいひは目よとあまひ
 案のいひは清き若るを
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと



子松きごんを右服由
 とくらしとある後を記
 するに橘の目や極
 げ今も入へお出あつて
 他へおぬらち侍者と
 就父と表のて喉で
 今と作せよとつと
 案が上使の役目よ
 案のいひは目よとあまひ
 案のいひは清き若るを
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと

九二

父さんも清さん由
 大さびの天衣の赤服
 まあ服あつた服類と
 海へおぬらち侍者と
 就父と表のて喉で
 今と作せよとつと
 案が上使の役目よ
 案のいひは目よとあまひ
 案のいひは清き若るを
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと



父さんも清さん由
 大さびの天衣の赤服
 まあ服あつた服類と
 海へおぬらち侍者と
 就父と表のて喉で
 今と作せよとつと
 案が上使の役目よ
 案のいひは目よとあまひ
 案のいひは清き若るを
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと
 案のいひはあつと

九二

横山

代

二夏

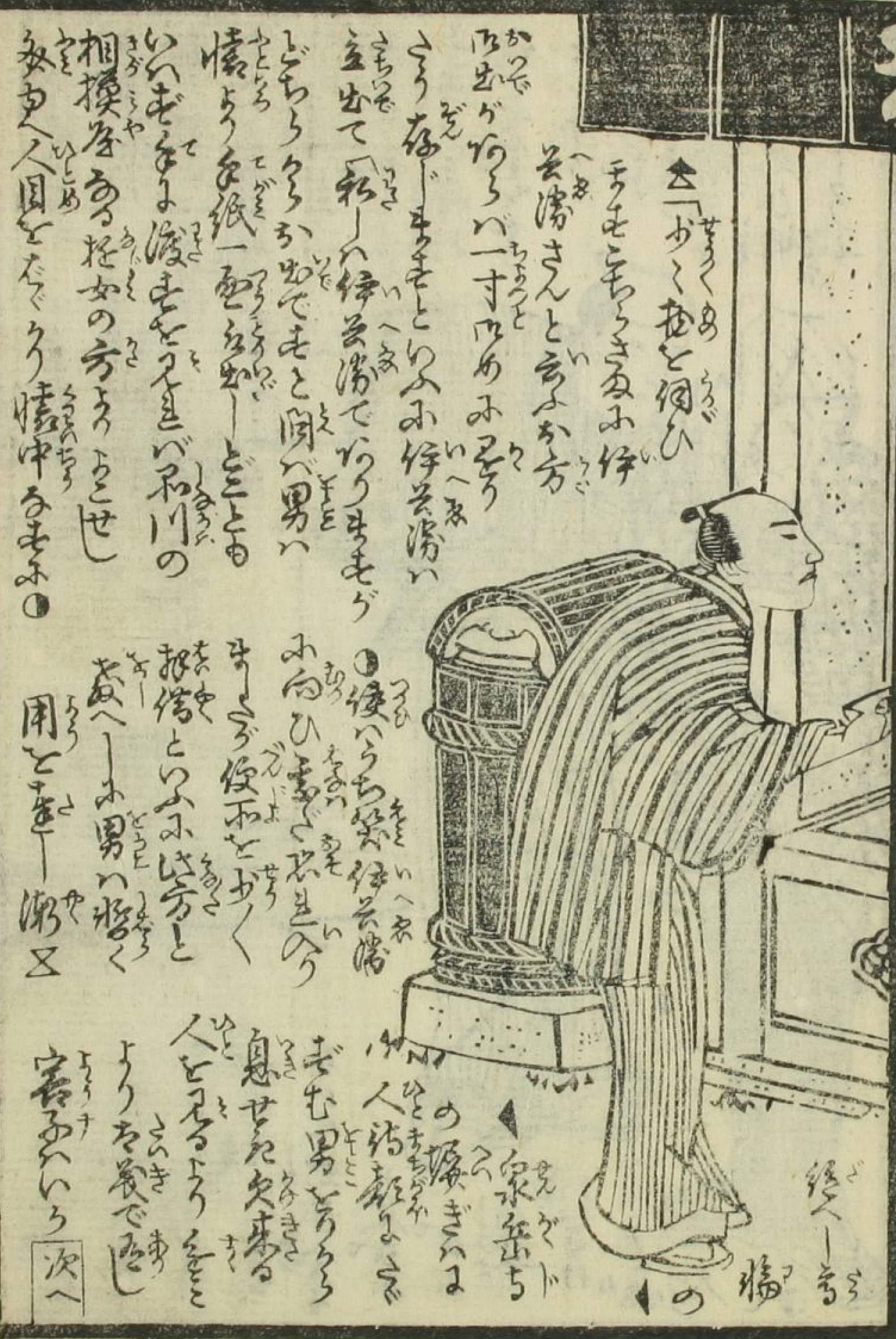


△夫の一人の
男様とよめて
分りあり△

早
来の
飛る
羽め
方と

△らん
出ま
運も
黄ひ

△そくみ
帳を
ゆり
身と
本と
花の
風と
みる
みる
遅身途



△かくむと何ひ
ちをこもさる小作
長清さんとちよか方
かる
西まがらうハ一寸四めみそ
さうな
ままとのみ小作長清
ま出て
とらうらちあてまと同ハ男ハ
懐より紙一巻をわくととよ
いむをよほまをえまは石川の
相換をある花女の方よりとせし
女主人目をとくう懐中をまよ

△後ハ
小向ひ
身と
お信と
女へ
用と

△泉
人
息
人
より
害

九二二

六



今まむと
 長き
 名未
 且と路の
 云々
 みるゆか
 いろと
 い
 金と
 くら
 と
 なる

町
 の

松
 の
 方
 の
 月
 居

牛
 几
 二
 三

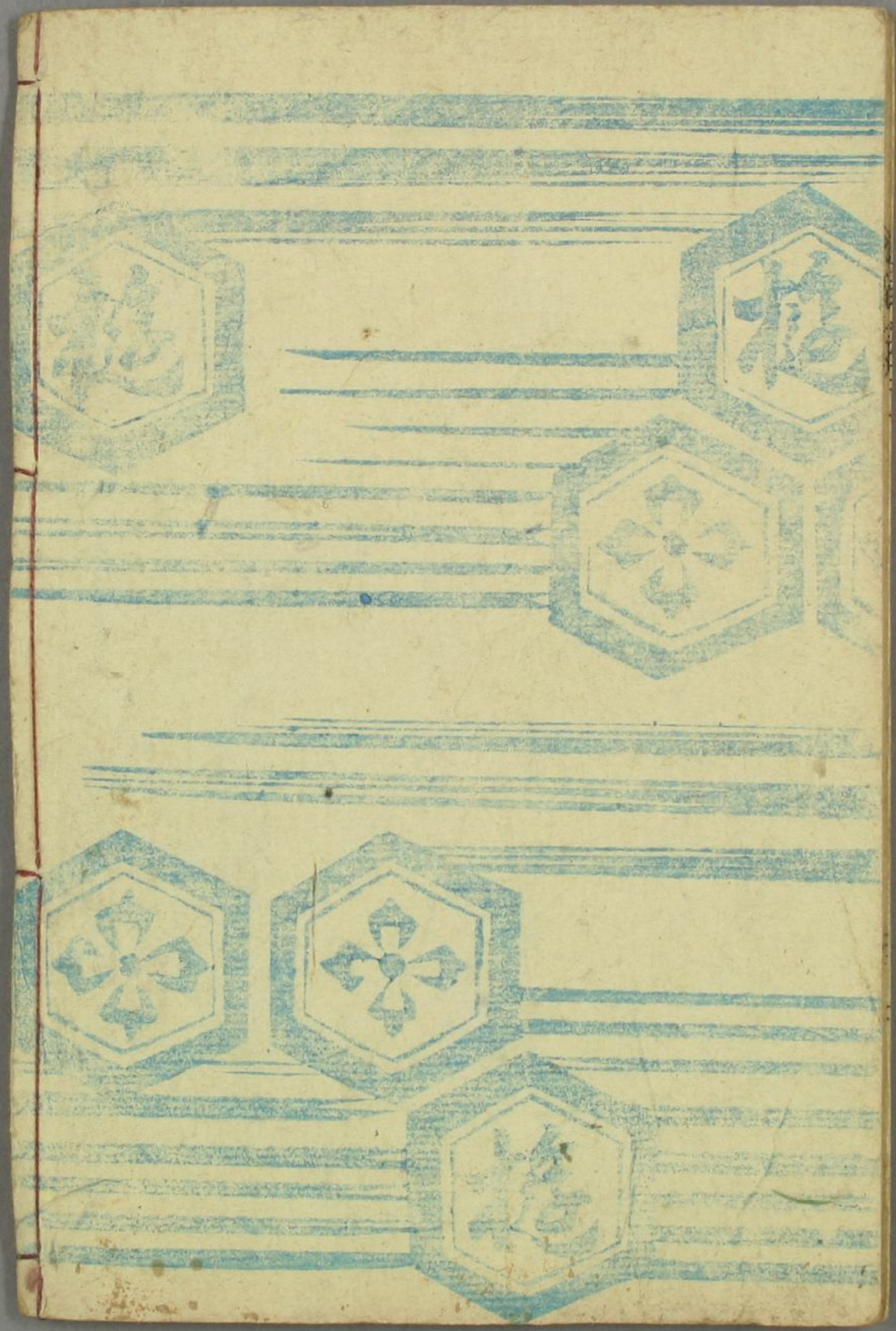


今まむと
 長き
 名未
 且と路の
 云々
 みるゆか
 いろと
 い
 金と
 くら
 と
 なる

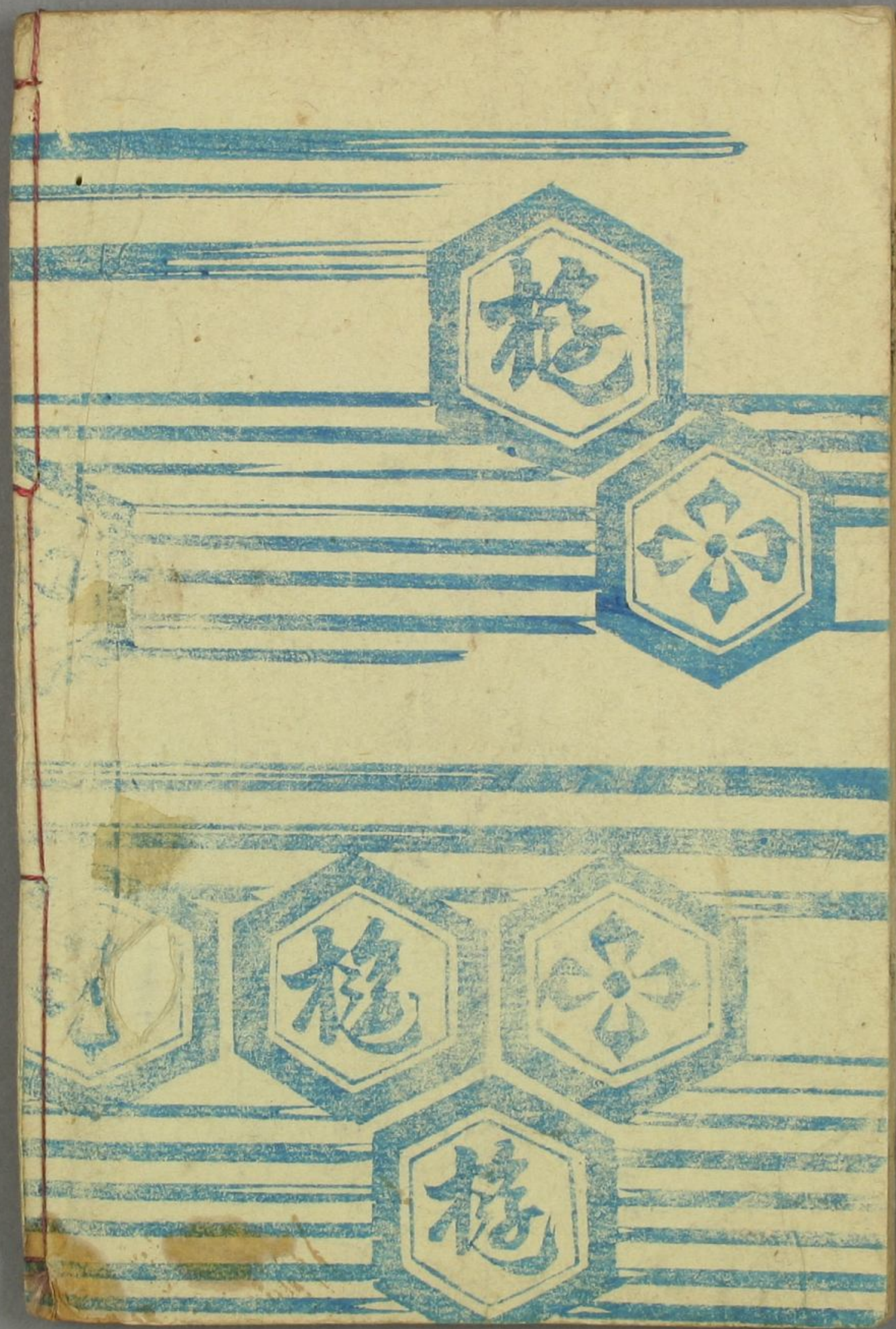
先生
 の
 名
 前
 は
 何
 だ
 と
 尋
 ね
 ら
 れ
 た

先生
 の
 名
 前
 は
 何
 だ
 と
 尋
 ね
 ら
 れ
 た

小
 栗
 組



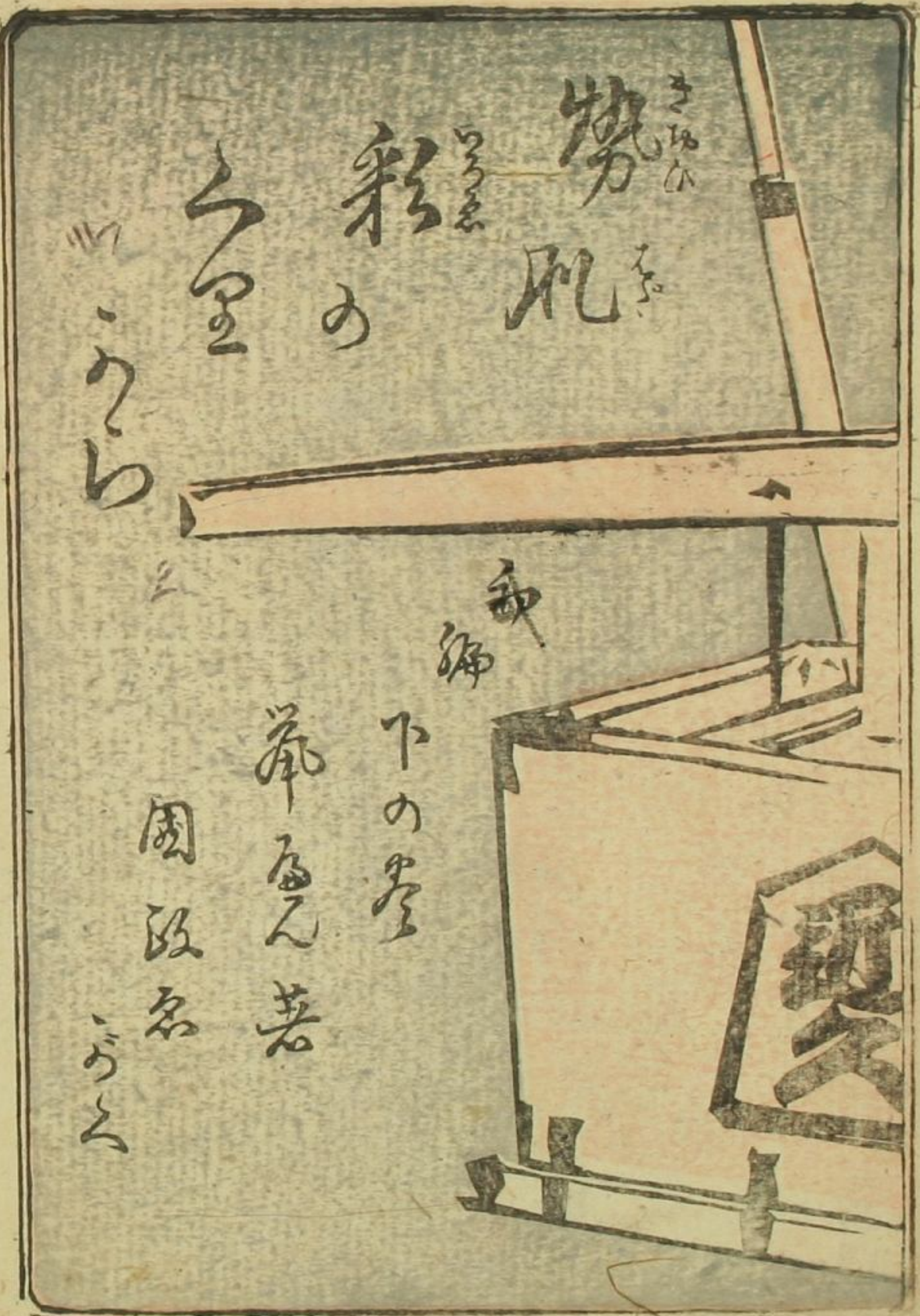






川上鼠邊編輯
梅堂國政画





<48-8299>

東西くはるのゆかりのまきと極のりより送るにて
 小嵐く尻尾と寒かざり何やうなうく初編の
 序文為字深文の中伏は名たの通り
 此程は松屋が懐初室外品の位は糸糸終は序文の
 校合後頼まき貴免の後み製を理せビツクリサア
 文彦立腹て足も後の帯の更うう着文彦の
 かでんとまはあどが片こも年代でま初編の深字
 を改む序初編序文片一初目末世明智の後名と
 為一初二初目泥池のい二初目理るの目片初
 目泥水の泥水目六初目生長の飯名を失ひ目十一初目
 初序と云うらんん要めあて叶いぬ大切あうかまを
 まいどあさせ何とモウとも中條のあへ始終是と中由死者の
 不澄意足うう後へんをつゆを極る正の終ませぬと
 本在も津虫由どまきあへく得り入りま〜



川上氣遠徳

九下

つぎ ありき
 道で下ふも
 怪しむ者と
 首の付る
 正と不正
 も鬼無光
 推察ゆて
 夜明が我と
 役場人出し殺
 身の役人目付が
 我一人とありき
 養老もあつたの者
 連ふは長年と一若又



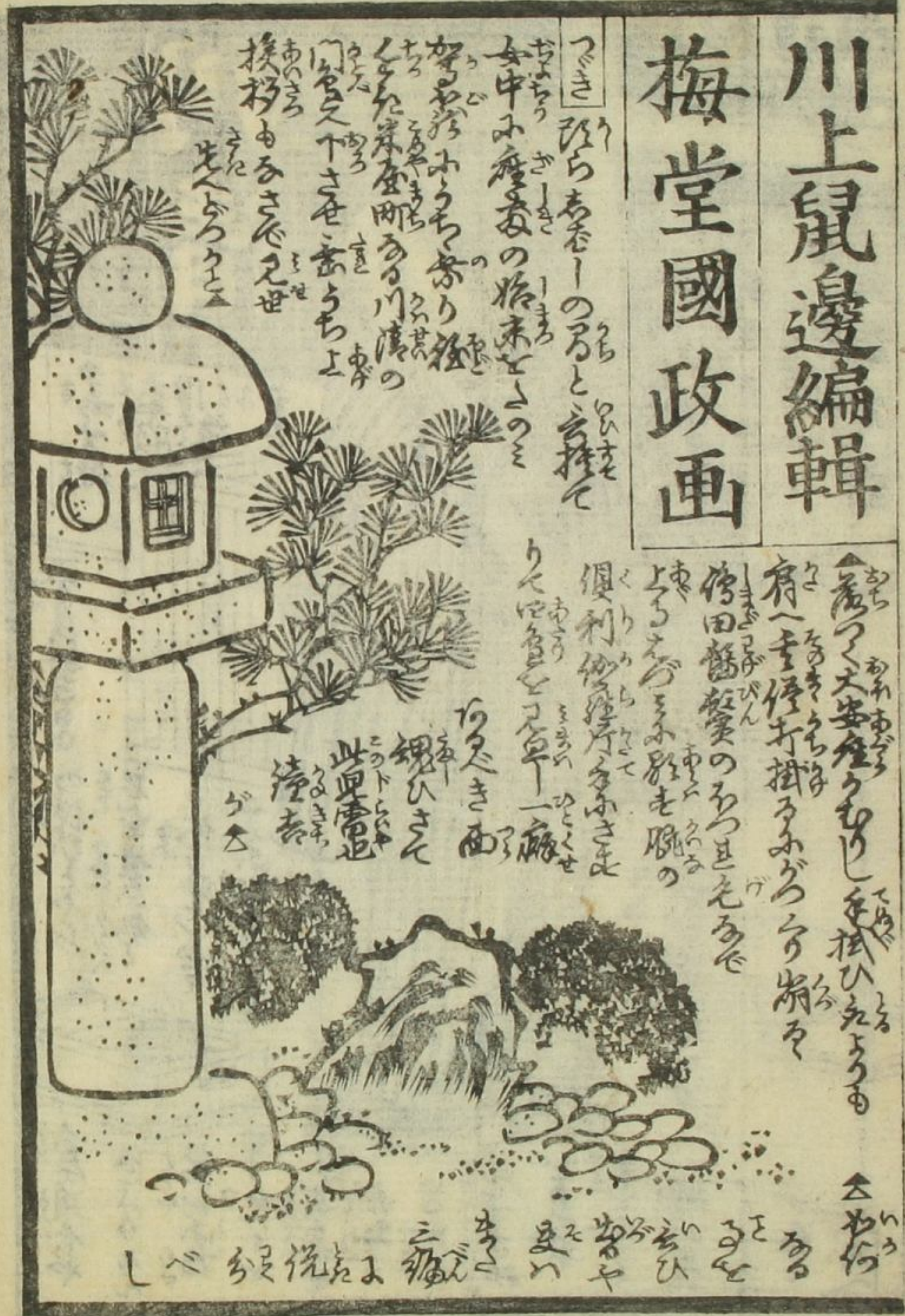
△南とある
 △角のありき
 △首の付る
 △養老もあつたの者
 △連ふは長年と一若又
 △養老もあつたの者
 △連ふは長年と一若又
 △養老もあつたの者
 △連ふは長年と一若又

おまが怪しむはつととある
 そちと怪しむ者ありき
 うらんぬありきとせめ問れ我も
 一者何とせめ問れ我も
 正と不正
 も鬼無光
 推察ゆて
 夜明が我と
 役場人出し殺
 身の役人目付が
 我一人とありき
 養老もあつたの者
 連ふは長年と一若又



おまが怪しむはつととある
 そちと怪しむ者ありき
 うらんぬありきとせめ問れ我も
 一者何とせめ問れ我も
 正と不正
 も鬼無光
 推察ゆて
 夜明が我と
 役場人出し殺
 身の役人目付が
 我一人とありき
 養老もあつたの者
 連ふは長年と一若又

川上鼠邊編輯
梅堂國政画



明治十三年四月十九日御届

編輯

出版人

本所區

廿五番地

川上謂一郎

日本橋區

龜井町廿六番地

澤久次郎

010190517573

